平成 30 年３月２日

各　　位

会 社 名　フマキラー株式会社
代表者名　代表取締役社長　　大下　一明
（コード番号　４９９８　東証第２部）
問合せ先　取締役管理本部長　佐々木　高範
（TEL. ０８２９－５５－２１１２）

ブレーンズ・パーク建設の再開に関するお知らせ

当社は、平成 30 年３月２日開催の当社取締役会において、従前、中止していた新しい開発棟及び生産設備であるブレーンズ･パークの建設を再開することを決定いたしましたので、お知らせいたします。

記

１．ブレーンズ・パーク建設の目的

ブレーンズ･パークにつきましては、平成 22 年５月 13 日の当社取締役会において、長期的な視点に立ち、新商品開発力の更なる強化、並びに、今まで以上に高い品質及びコストダウンを実現するために、新しい開発棟及び生産設備であるブレーンズ･パークを当社広島工場内に建設することを決定しました。その第一期工事としてエアゾール工場を建設しましたが、その後の経営状況の悪化や建設資材の高騰、並びに ASEAN 諸国で殺虫剤の製造販売業を行っていた Technopia Sdn.Bhd.（現社名 Fumakilla Asia Sdn.Bhd.）及び PT. Technopia Jakarta（現社名 PT. FUMAKILLA NOMOS）の株式を取得し、子会社化するための資金需要が発生したこと等の理由により、平成 25 年 12 月 25 日付で第二期工事以降として予定していた新しい開発棟等の建設をとりやめ、以降のブレーンズ・パークの建設中止を発表いたしました。

その後、当社の経営状況の改善、業容が拡大し、外部環境が大きく変化していること等を踏まえ、ブレーンズ･パークの建設について再度審議し、従前、中止していたブレーンズ･パークの新しい開発棟等の建設を再開することを改めて決定いたしました。

当社グループの競争力の源泉は、研究開発を重視する技術志向の組織風土を背景とする「商品力」にあります。然しながら、現在の開発棟は建設から 53 年が経過して老朽化しており、新たな試験設備を設置するうえで制約があるばかりでなく、近い将来には研究活動の継続に支障をきたす可能性も否定できない状況にあります。また、研究開発の人員増加により現在の開発棟に全ての研究開発員が入りきらず、別々の建物に分散して入居する状況になっているため、情報の共有化を図り研究効率を高める観点においても課題が生じております。

また、当社は、研究開発から金型の製造・製品の生産まで一貫して自社で行うことにより高い品質とコストダウンを両立してまいりましたが、近年の液剤関連商品の売上増加に伴い、既存設備を活用した生産能力増強及び生産対応品目拡大は限界が近づきつつあります。

このような状況を抜本的に改善し、今後の長期的な「商品力」向上と生産能力増強を実現するためには、従前予定していたブレーンズ･パークの新しい開発棟や生産施設を建設することが必要と判断いたしました。

なお、当社は、かかる建設資金を調達すること等を目的として、本日開催の当社取締役会において、自己株式の処分についても併せて決定しております。詳細は、本日付「自己株式の処分及び株式売出しに関するお知らせ」をご参照ください。

２．ブレーンズ・パークの概要

(1)建設場所	当社広島工場（広島県廿日市市梅原）敷地内
(2)建築面積	約 5,335 ㎡
(3)延床面積	約 8,175 ㎡
(4)内容	研究開発及び生産に関する施設等 （生産に関する施設として、液剤工場の新設を予定）
(5)投資金額	約 19 億円（概算）
(6)資金計画	自己株式の処分資金並びに自己資金又は借入金により調達予定

３．今後の予定

(1)建設確認申請	平成 30 年 12 月（予定）
(2)着工	平成 31 年４月（予定）
(3)稼動開始	平成 32 年９月（予定）

４．今後の見通し

当期の業績に与える影響はございません。

来期以降の業績に与える影響につきましては、その内容が具体的に明らかになり次第、速やかに開示いたします。

以上